

ネパールの状況

- ・インドの北に位置する内陸国で、アジアの最貧国の一つです。
- ・主要産業は農業ですが、観光も重要な産業となっており、大地震は経済に大きな影響を与えています。
- ・海外出稼ぎ労働者からの仕送りがGDPの約4分の1を占めています。
- ・こうした状況の中で、2500万を超える人々が懸命に日々の生活を過ごしてきました。

おもな統計数値

- ・ 人口: 2,649万人 (就業人口の約9割が農業に従事)
- ・ 一人当たりGDP: 約690ドル (世界第164位)
(日本46,706ドル ネパールの67倍)
- ・ 識字率: 男性61.6%、女性26.4%
(Human Development Report 2004)
- ・ 平均寿命: 男性/女性: 59.9歳 / 59.4歳
(日本: 男性/女性: 79.6歳 / 86.4歳)
- ・ 乳児死亡率: 66/1,000人 (日本: 2.86 ネパールの23分の1)

ネパール大地震の被害状況

4月25日11時56分、ネパール中部ゴルカ郡の深さ15kmを震源としたマグニチュード7.8の大地震が発生し、約80km離れたネパール最大の都市である首都カトマンズとその近郊でも甚大な被害となりました。

ネパール国内の被害状況

- ・ 死者: 8,650人 (5月25日現在)
- ・ 負傷者: 約19,000人
- ・ 全壊家屋: 約49万棟

* 震災前からインフラが未整備であり、首都カトマンズでも1日のうち停電が10時間以上、水道は1週間以上断水するということが当たり前という状態でした。家屋は主に日干しレンガを積んだ構造が多く、地震(特に横揺れ)には極めて脆弱であり、以前から問題視されていました。また、情報通信網等も不十分であることから、震災被害の全貌が明らかになるには相当の時間を要するものと見られます。

JILAFはネパールの人々に寄り添い、数次にわたる支援を行なっております